

参加者同士の意見交換

グループに分かれて
 ・令和6年度のプロジェクトに関する感想・意見・アイデア
 ・令和7年度に向けた感想・意見・アイデア
 を話し合いました。

参加者の声

- 企業の方と話すことが少ないので、新鮮だった
- 料理人の求める野菜を聞きたい
- メインの作物が余ってしまうことが課題
- 利益につながるテーマならみんな参加するのでは
- 若手の人の参加を増やしたい
- 農家の圃場を見学するツアーがあったら良い
- 京都で有機農家が少なく、横で繋がれたら良い
- 農家さんの話を聞いていると、野菜の値段が安く感じる



コミュニティとか場を求めておられる方がたくさんいるんだと実感しました。きちんとテーマ設定をして深掘りができるような会になればと思います。



コメンテーター：近藤 貴馬氏

色々な業種の方が集まっているのが良いという意見が出ていました。同時に多業種が参加していることを活かしていないというご意見もありました。次年度に向けたテーマも出てきたと思いますので、その辺りを踏まえ、ぜひ事務局に頑張ってくださいと思います。

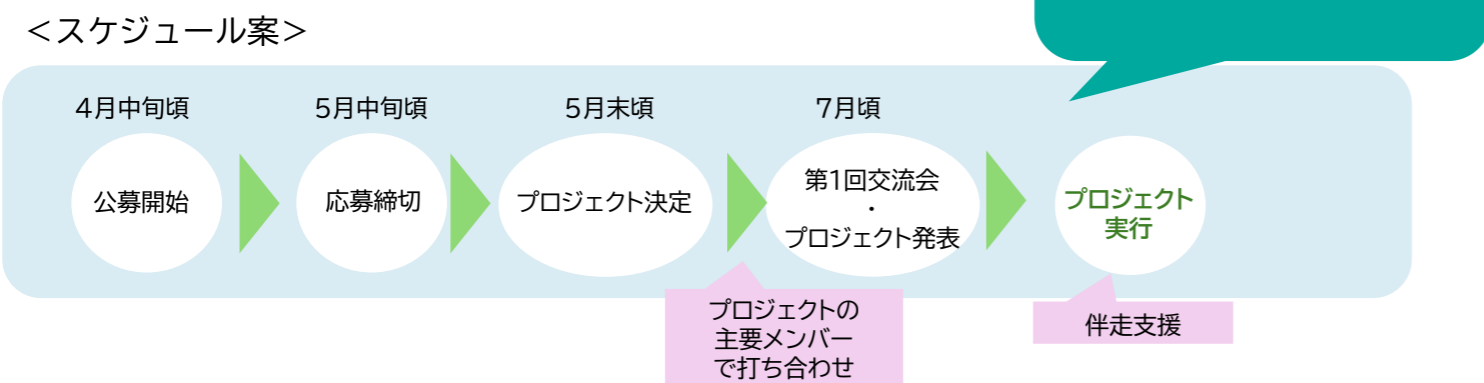


コメンテーター：中村 貴子氏

Topics 2 令和7年度の進め方について

●令和7年度の取組
 「チャレンジする、やってみる」をより重視し、
 ・「農家が主体的に参画できるプロジェクト」の創出
 ・新たな価値創出やイノベーションに向けて、「農家が普段お付き合いのない企業」との連携 (ex. 教育、旅行、SDGs、CSR、健康経営に関心が高い企業…)
 ・より多くのマッチング機会の創出
 を目指して、取組を進めます。

●プロジェクトの決め方
 令和7年度は、プロジェクトの公募を予定しています。
 ① 下記の「プロジェクトの仮テーマ」に応募
 ② ①以外にもやってみてみたいことがあれば、「自由提案枠」に応募の2種類で、プロジェクトを公募します。



詳細が決まり次第、改めてお伝えします。お楽しみに！！

KYOTO Agri-Business Café
NEWS 2025 No.02

アグリビジネスカフェの参加者を募集しています！

▲京都市内の農業者の方 ▲企業等の方

Topics 1 第12回ビジネス交流会を開催しました！

今年度実施した3つのプロジェクトの報告会と合わせて、KYOTO Agri-Business Café 第12回ビジネス交流会を開催しました。開催内容を写真とともにお伝えします。

日 時：令和7年3月4日（火）16時から18時
 場 所：京都信用金庫 QUESTION 7階 Creative Commons
 参加者：市内の農業者、企業の方など20名

プログラムの流れ

1. 開会
2. アイスブレイク
3. 令和6年度のプロジェクトの報告
4. 令和7年度のKYOTO Agri-Businessの取組方針の発表
5. 参加者同士の意見交換
6. 全体での振り返り
7. その他情報提供
8. 閉会

■懇親会（自由参加）

京都市アグリビジネスカフェとは？

●アグリビジネスカフェ創設の趣旨
 京都の農業が抱える課題の解決に向け、これまでの農業政策の枠にとらわれず、新しい農業のビジネスモデルの創出を目指す。

京都の農業が抱える主な課題

- ・ 農業従事者の高齢化、若い世代の農業への参入の減少による担い手不足
- ・ 気候変動に伴う異常気象や自然災害の増加による経営リスクの増大
- ・ 資材の高騰、農産物の価格低迷
- ・ 都市農業の強みを生かした生産・流通・販売体制の構築

KYOTO Agri-Business Café ホームページ

●令和6年度の取組
 「イノベーションを起こすために、みんなで取り組む、チャレンジする、やってみる」を目的に、下記の方針のもと取組を進めました。

アグリビジネスカフェの取組方針

- ・ 多くの農家が参画し、**農家の横のつながり**を創出
- ・ **農家の取り組みたいこと、課題など意見やアイデアを聞く**
 ⇒ プロジェクトになり得る素材を収集
- ・ **多様な主体にプロジェクトに参加**いただく
 ⇒ 複数の主体による掛け算を増やす
 ⇒ プロジェクトの代表者だけでなく、ほかの関わりも追加し、チームで取り組む
- ・ 農家以外の関わり方についてみんなで考える

3つのプロジェクト

- ① 若手農家をみんなで応援プロジェクト
- ② 京野菜からはじまる地産地消プロジェクト
- ③ みんなで耕す「京都市アグリビジネスカフェ」プロジェクト

令和6年度のプロジェクトの報告

プロジェクト① 四方よし！農家応援連続講座 「みんなで京都市の農家を応援するプロジェクト」

販路開拓をテーマに小売業、飲食店などあまり一次事業者と接する事がない業種の「リアル」な情報を提供しながら、農家の皆さんの課題を他業種の方を巻き込んで解決方法を探っていくための交流会を3回実施しました。

実施した交流会

- ・1回目：「小売業のリアルが知れる講座」（売り手・買い手視点）
- ・2回目：「農家の課題をみんなで考える交流会」（作り手視点）
- ・3回目：「令和6年度の振返/今後の取組」（未来視点）



交流会の様子

交流会にて参加者のご意見をいただき、GOOD NATURE STATIONとしてできる事を提案しました。

●市産市消→区産区消を目指すテスト販売 (3回目のアンケートで最も興味があった内容)

- ①商品のバック、容量の検証
 - ・京都市ならではのパッケージや容量など、お客様が買いたいと思う商品を検証します。
- ②販売する新たな場所や売り方の検証
 - ・お客様が日常で使用する場所で、お客様のニーズがあるかどうかを検証します。通常陳列していない時間帯に販売する事も同様に検証します。

令和7年度に取組を進めていきます。



発表者：株式会社バイオスタイル
マーケット事業部
本山 喜之氏

参加者の声

- 販路の話が多かった
生産面などの話
がもっと聞きたい
- 区産区消の
イベントに
参加したい
- 農家さんを巻き
込むには、直接
的なメリットを
いかに伝えるか
が大切
- 6時産業化には、
支援があるので、
活用できる
- 近場で販売でき
るところがあれば、
嬉しい
- テスト販売で生
じた課題を把握
したい

プロジェクト③ みんなで耕す「京都市アグリビジネスカフェ」プロジェクト

もっと農家さんの声が聴きたい。
複数の農家さん・企業が参画するプロジェクトができないか…？
京都市らしさのあるプロジェクトとは…？

農家さん・企業の方が気軽に集まり、困りごと・叶えたいことを共有、情報交換、つながりづくり、解決・実現に向けて動き出す出会いとコミュニケーションの場をつくりまします。



発表者：京都市産業観光局
農林振興室
農林企画課
農業イノベーション担当係長
岩崎 智優氏

ろくじからしゃべらnight?

「農家さんと気軽に話す」集まり、人と人のつながりから、農と食にまつわる新たなアイデアを生み出すことを目指し、KYOTO Agri-Business Cafeのプロジェクトのひとつとして実施しました。

実施した「ろくじからしゃべらnight?」

- 第1回：「京都市アグリからはじまるこれからの食や農の学び・体験について考えよう！」
- 第2回：「新規就農（また若手農家）のリアルを知り、みんなで応援しよう！」
- 第3回：「有機農業の魅力・価値・課題について農家さんと語ろう！」



ろくじからしゃべらnight?の様子

ブラッシュアップを目指して、令和7年度も引き続き実施します。
「こんな話がしたい」というテーマも募集しています。

参加者の声

- 「アグリライフスタイル」など、一般の人が入りやすいキーワードがあれば
- 分科会みたいなものを作って具体的に動いていければいい
- 生産者さんの横のつながりを求めるニーズはある
- 生産者さんの専門的な話で知識をアップデートできるような場も面白いかも
- 農家さんの参加が少なく、固定化しているのが残念
- 集まって何をやるのかを明確にした方が良さ
- 消費者マインドの向上につながる取組があれば

プロジェクト② 京野菜からはじまる地産地消プロジェクト



発表者：株式会社ミナト
青果事業部
中村 謙吾氏

今回は辛味大根です



伝統野菜を“種子保存のための保存”に留めてほしくない。
改めて、美味しい野菜として市民に広まり、
農家さんが作りがいのある野菜になってほしい！

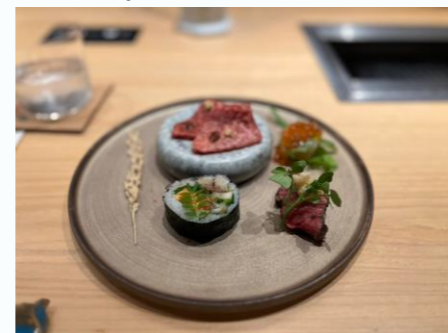
生産者ツアーを開催しました

料理人や学生の方と2回生産者を訪れました。



料理店でメニュー化しました

実際に辛味大根を使ったメニューを開発しました。



牛肉のたたき 上に薬味使いとして

今後の展望

- ・ 伝統野菜の生産者との出会いとコミュニケーションの機会を継続的に作る。
- ・ 希少な伝統野菜をまとめて紹介する冊子、記事、レシピの作成。
→料理人や食への関心が高い層への発信。
- ・ 生産者がストーリーテラー（語り手）となり地域の食の歴史、文化を発信し、国内外のゲストと交流するツーリズムの展開。

参加者の声

- 農家さんの気持ちがどうなのか知りたい
- 料理人さんの関心は、伝統野菜というよりも、「希少な」伝統野菜?
- 量が取れないと、事業者として取り組むのは難しいかも
- 伝統野菜は気になっていて食べてみたい作ってみたい
- 最近の流行るようなものかと思う
- 辛味大根は、焼鳥屋さんなどで丸ごと出すこともできそう